

首里城石積みからの探究について

国営沖縄記念公園事務所 首里出張所 ◎伊佐 真幸
○新垣 英隆

1. 目的

首里城を頂点とした沖縄の城（グスク）は、琉球石灰岩を主とした石積みで築かれており、岩石としては軟岩に分類され、加工が容易であることが大きな特徴となっている。

琉球石灰岩は、沖縄県の中南部を中心に琉球列島全域に広く分布しており、はじめは転石状のものを集積して郭を構えたものが、鉄器の導入などにより次第に加工され、より高度な技術をともなった石積みへと発展していったと考えられている。

現在も首里城地区は正殿裏の御内原（国王と家族と女性の空間）復元工事を進めている。復元整備は事前に古絵図、写真等で推定した復元位置及び形状等を確認するために発掘調査を行い、この遺構を最重要根拠資料として、設計、工事と進めていく。今回、発掘調査から見える形状、特徴を生かした首里城での復元整備の紹介、石積みから広がる魅力を探究するものである。

2. 内容

- 県内各地の石積みの特徴
- 首里城発掘調査から見た遺構の形状と特徴
- 首里城で復元整備した石積みの特徴
- 城（グスク）の歴史

3. 結論

首里城を含めた多くのグスクにある石積みには、たくさんの特徴、魅力が詰まっている。このことは、長い年月や更には沖縄戦で多くの文化財的建物が失われたが、わずかに残る遺構を根拠の保全及び復元を行ってきたことで、その歴史背景との関係を見つめ、多くの発見をすることができた。

4. 今後の課題

首里城でも多くの石積みが整備され、屏風のようななめらかな曲線という特徴を持ちながらも、どちらかというと脇役となっており、その魅力を十分に伝えることができていない。そのため、石積みを通して、首里城を始め、各地に広がるグスクがもつ石積みの特徴やその魅力を情報発信することで、歴史文化を広く知らしめる学習の場や、更には、沖縄の観光資源へ結びつける一つとなるように、今後、展示・企画等の立案、構築を進めるためのきっかけになれば幸いである。